

# 資料紹介 原川電気店資料

## Introducing Materials on “Harakawa Denkiten” (Harakawa Electrical Appliances Store)

\*植野英夫

Hideo UENO

**概要：**当館が収蔵する資料のうち、一群の資料としては現在最も点数が多い「原川電気店資料」の概要を報告する。本館で収蔵するにいたった経緯と、仮受け入れしてからの整理内容、そして作成した目録と資料群の特徴について述べる。もって、当館における資料収集活動の一端を公開し、今後の利活用を図る基礎とするものである。

**Abstract :** It is reported here about the outline of “Materials of Harakawa Denkiten (Harakawa Electrical Appliances Store)”. At the present the materials number the most as a set among those stored in this museum. Details of how they came to be stored here, of arrangement after their tentative reception, the inventory which we prepared and characteristics of the materials will be stated. Material collecting activities at this museum thus, will be made public, enabling to build a foundation for future utilization and application.

**キーワード：**資料収集，電気店，家電製品

**Key words :** Material collecting Electrical appliances store Electrical appliance products

当館は、1994年6月に開館したが、設置準備段階からも含めると約20年近く資料収集活動を継続して実施してきた。収集資料の対象は、常設展示のテーマである「現代産業の歴史」「先端技術への招待」「創造の広場」に係るものと、当館で実施してきた工業歴史・産業交通遺跡・近代和風建築等の各種調査事業関連のものとしている。

今回報告する資料は、町の電気屋さんが閉店するにあたり、その当時店舗・倉庫内に残されていた商品ストック、工事で使用する計測器類と部品・電材等を一括で受け入れたものである。これまで収集してきた資料群のなかでは最も点数の多いものとなった。2年間をかけた整理が終了したことで、その概要を報告し、寄贈者の方へ謝意を述べるとともに、収蔵資料の公開と今後の活用を図ることとしたい。

### 1 経緯

寄附者は、静岡県三島市北田町において電気店を営んでいた故原川秀夫氏（1921～2001）の御遺

族である。当館主催の特別展において資料提供を受けたことが縁で、店舗に残るものをまとめて受け入れるお話を頂戴した。

2002年12月に現地で受け入れ前の事前調査を行ったところ既に電気店は20数年前に店じまいしていること、その頃の電化製品が商品ストックとしてあることなどが判明し、電気店の一括資料として意味があり、仮受け入れをし、整理することで内諾を得た。



図1 2002年事前調査の時の写真

2003年2月に当館へ搬入し、2003年度から整理・清掃・可動の有無などを調べ、目録の作成に着手した。

2004年10月に目録作成が終了し、御遺族に整理の結果を報告し、今後の取扱いについて相談したところ、科学館の資料として活用していただく御了解を得、12月の資料審査会を経て正式な館蔵資料として登録した。



図2 整理作業中の写真

## 2 整理及び目録作成方針

搬入した時点で段ボール数十箱あったため、作業効率を考えて、まずは全箱を開封し四つのグループにわけた。まずモノ資料は、A：良品とみなされるもの、B：次点とみなされるもの、C：雑多で且つ部品類とみなされるものの3グループに仕分けし、カタログ・テクニカルガイド・取扱説明書等の紙資料を一つのグループとした。モノ資料については、次のような整理を行った。

- ・完成品であれば、所期の稼動が可能であるかを確認する。例えば電球であれば、点灯するか否か、電気コタツであれば、熱せられるか否かを確認した。製造年代や性能等に見るべき点があれば、稼動しない又は著しい破損があるものは目録から除いた。
- ・完成品又は部品であっても、同一のものが複数以上あれば、最もコンディションの良好なものを目録に拾い上げ、それ以外はふるい落としした。ただし、1梱(箱)で出荷された状態や店頭に並んでいた状態が残っていれば、

全体を目録に拾い上げた。

- ・拾い上げた個々のものには、「メーカー名」「資料名」「品番」「法量」「重さ」の各事項を記載し、箱入りか否か、説明書の有無、価格、定格など来歴に結びつくデータは可能な限り記録した。その後、拾い上げの整理番号を明記した荷札を付した。

紙資料については、発行者(電気会社)別、年代別に分けて目録をとり、整理番号を付した封筒に詰めた。

モノ資料は、整理を終えた後に、用途別に「計測器」「計算機」「コンピューター」「テレビ映像」「音響」「換気」「報知器」「理容」「調理」「電熱」「照明」「通信」「真空管」「コンデンサ」「ダイオード」「抵抗」「トランジスタ」「トランスフォーマー」「IC」「電材」にカテゴリ化した。ただし、通信機材の一括の中にあつた部品類では、「電材」とはせずに「通信」に分類したものもある。「真空管」「トランジスタ」等についても当初「電材」としたが、かなりの点数がありパッケージ毎の状態であるものが多いことから、独立した項目とした。そして最終的に、A・B・Cのグループを外し、用途別のカテゴリーに振り分けた。



図3 原川電気店営業当時の店舗写真(撮影年不明)

## 3 概要

故原川秀夫は、1937年に電電公社関連の通信工事に従事したが、1938年から父秀松氏のもとで一般電気工事の業務にも携わるようになった。店舗では、家電製品全般を扱った小売業を商い、その他に構内電話設置を中心とした通信工事を手掛け

た。業務の合間を縫ってメーカーが主催する製品修理の研修に参加したり、テクニカルガイドを取り寄せ日常の電化製品修理に役立てるなど、研鑽に努めてきたことも資料から窺がえる。

こうしたことから、一般の電気屋では扱っていない電話機や通信電材、テレビ修理に用いる各種計測器や真空管・トランジスタ等の電材が資料に含まれる。紙資料でも、メーカーが作成したサービス虎の巻、テレビ回路図集などがあり、業界関係者以外は目にする事の少ない資料もある。

### (1) モノ資料

A・B・Cの3つのグループに分け目録をとったところ、下表のように、合計408件の件数を数えた。

用途別	件数	比率
計測器	22	5.39%
計算機	1	0.25%
コンピューター	2	0.49%
テレビ映像	13	3.19%
音響	12	2.94%
換気	5	1.23%
報知器	5	1.23%
理容	15	3.68%
調理	12	2.94%
電熱	25	5.13%
照明	53	13.00%
通信	54	13.24%
真空管	59	14.46%
コンデンサ	53	13.00%
ダイオード	4	0.98%
抵抗	16	3.92%
トランジスタ	12	2.94%
トランスフォーマー	10	2.45%
IC	1	0.25%
電材	34	8.33%
計	408	

このうち、民生用電化製品以外に、通信関係のモノも多くあり、原川電気店が電化品販売以外にも、電気通信工事を手がけるかなり大きな電気店であったことが窺える。また、各種電材を見ると、家電製品の補修も手広く手がけていたことが確認でき、1950～80年代にかけての主要な商品が含まれている。電球・各種家電製品部品は当時の売価がわかり、テレビ修理用のキットはエレクトロニ

クスの発展過程がわかるなど時代の諸相が窺がえる。

なお、コンピューターについては、取り扱っている商品内容と時代が相違することから、閉店の後に混じったものであることが御遺族から確認できている。

### (2) 紙資料

編著者別	業務用	一般用	点数	比率
National 関係	29	8	37	28.46%
東芝関係	6	3	9	6.92%
日立製作所関係	7		7	5.38%
日本電気関係	7		7	5.38%
SONY 関係	6	1	7	5.38%
大興電機製作所関係	4		4	3.08%
明星電気関係	2	1	3	2.31%
日本通信工業関係	3		3	2.31%
コロンビア	1	2	3	2.31%
岩崎通信機株式会社	3		3	2.31%
日置電機株式会社	3		3	2.31%
SHARP 関係	2		2	1.54%
富士電機関係	2		2	1.54%
パイオニア株式会社	2		2	1.54%
沖電気関係	1		1	0.77%
春日無線工業株式会社	1		1	0.77%
三幸商事株式会社	1		1	0.77%
株式会社高文	1		1	0.77%
三和電気計器株式会社	1		1	0.77%
社団法人PBX設備協会	1		1	0.77%
永倉精麦株式会社	1		1	0.77%
電気音響株式会社		1	1	0.77%
日本電波工業株式会社技術部		1	1	0.77%
日本電信電話公社関係	3		3	2.31%
NHK 関係	3	1	4	3.08%
社団法人日本電気協会	1		1	0.77%
電気関係一般図書	8		8	6.15%
静岡県電器組合関係	5	1	6	4.62%
メーカー名不詳	4		4	3.08%
個人	1	2	3	2.31%
計	38	6	130	

紙資料は、電気メーカーや通信機器メーカーが発行した民生品取扱説明書の他、補修に携わる技術者用の回路図などの業務用説明書や、更にはテレビの回路やメンテナンスに係る技術的なテクニカルガイドを含んでいる。特に、松下・東芝等が販売店向けに発行していた速報や回路図集は、収集しにくい資料といえる。また、1959年のナショナル家電総合カタログや、販売にあたっての売り口上を記したものなど、戦後成長し続けてきた家電業界の有り様を物語るものも見られ、現代産業の歴史を知る上で貴重な資料も含んでいる。

#### 4 今後の活用について

これらの資料は、現在千葉県教育委員会が運用・公開している「デジタル・ミュージアム」に近く搭載し、WEB上で写真とともに紹介することとなる。

館内にあっては、開館から10年を経たこと、博物館をとりまく環境が大きく変化してきたことを受けて、これまで以上の収蔵資料の活用を進めることで検討を行っている。その検討の結果をふまえ、今後は展示や体験的な学習の素材となると考えられる。

また、この報文及びデジタル・ミュージアムから当館収蔵資料の貸し出し等の活用がさらに進むことを願うところである。

#### 付記

本件は、当館学芸課において継続して整理・目録作成にあたってきた事業であるが、これまでの整理・調書作成には、落合昭雄氏に客員研究員の立場での尽力していただいた。整理・清掃・計測・カード作成の補助業務には、県立博物館収蔵資料等整理活用事業に基づき、飯田幸子・岡田三枝子・勝田明美・後藤佳代子・鈴木由里子・寺川真弓・早坂るみ子氏らの協力を得た。ここに記して深甚なる謝意を申し上げる。

なお、上記資料の照明に含まれる蛍光灯器具について、保管上問題となるPCBの有無について、当館からの照会に対し迅速に御対応いただいた東芝ライテック株式会社・松下電工株式会社に謝意を述べたい。

\*植野英夫 千葉県立現代産業科学館上席研究員